

北陸新幹線全線開業を活かした 小浜市新まちづくり構想

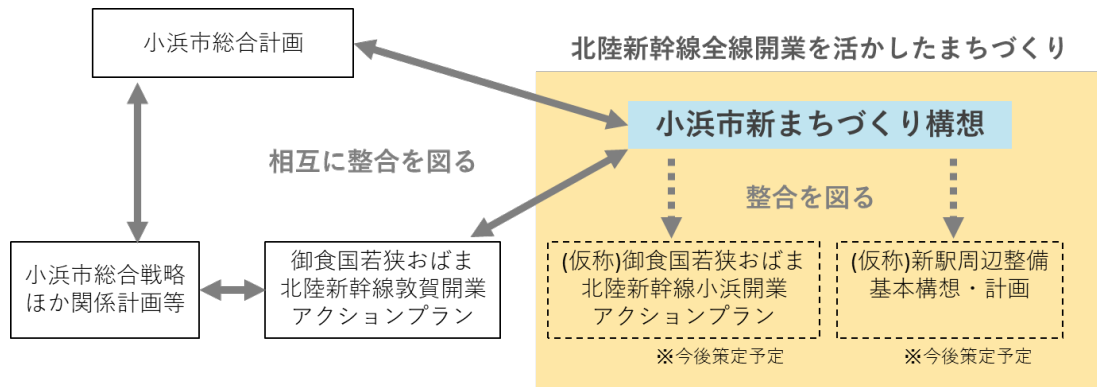
～オール小浜で取り組む新たなまちづくり～



令和2年6月
福井県小浜市

構想策定の背景と目的

- ・北陸新幹線の全線開業により、小浜市と関西や首都圏との所要時間は大幅に短縮されます。
- ・この変化を活かすことで、市民の暮らしの幅が広がり、市内の各分野の活性化が期待されます。
- ・人口減少が進む本市でも、小浜市ならではの魅力を受け継ぎ、持続可能なまちであるために、新幹線の効果を最大限生かしたまちづくりを行う必要があります。
- ・そこで、新幹線開業を見据えたまちづくりの基本的な考え方の方向性をまとめ、目指す姿を共有することで、市民一人ひとりが自ら感じ、自ら動き、夢に向かってチャレンジする取組姿勢をもって、まちづくりを推進することを目的として、本構想を策定します。



北陸新幹線開業のインパクト

北陸新幹線の諸元

- ・北陸新幹線は、東京～金沢間が既に開業しており、金沢～敦賀間は2022（令和4）年度末の完成・開業を目指して整備が進められています。
- ・北陸新幹線全線開業は、当初2046年頃と想定されていますが、北海道新幹線札幌開業となる2030（令和12）年度末よりも早い全線開業の実現を目指し、敦賀開業から切れ目のない着工に向けて政府・与党をはじめ関係者への要請を行っています。
- ・運行本数は、速達型（かがやき）は12～16本/日、各駅型（はくたか：金沢～東京）は14～15本/日の運行となっています。各駅型の運行ダイヤの平均間隔は60分前後です。



出典：福井県北陸新幹線建設促進同盟会「北陸新幹線パンフレット(2018.3)」、国土交通省より作成

【想定運賃】小浜新幹線駅～京都駅 2,110円 小浜新幹線駅～新大阪駅 5,050円 ※小浜市試算

北陸新幹線開業のインパクト

交通利便性の向上

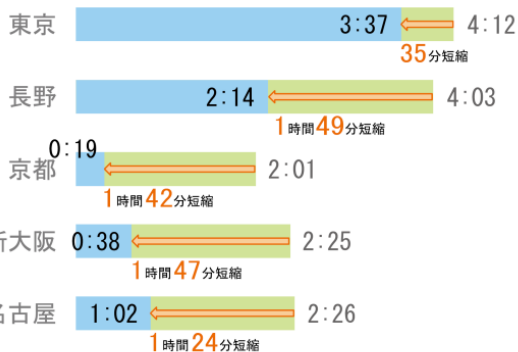
新幹線沿線都市との所要時間が短縮します。

京都駅 と **19分**

新大阪駅 と **38分**

新幹線沿線の空港を通じて、国内外との所要時間も短縮が見込まれます。

小浜新幹線駅



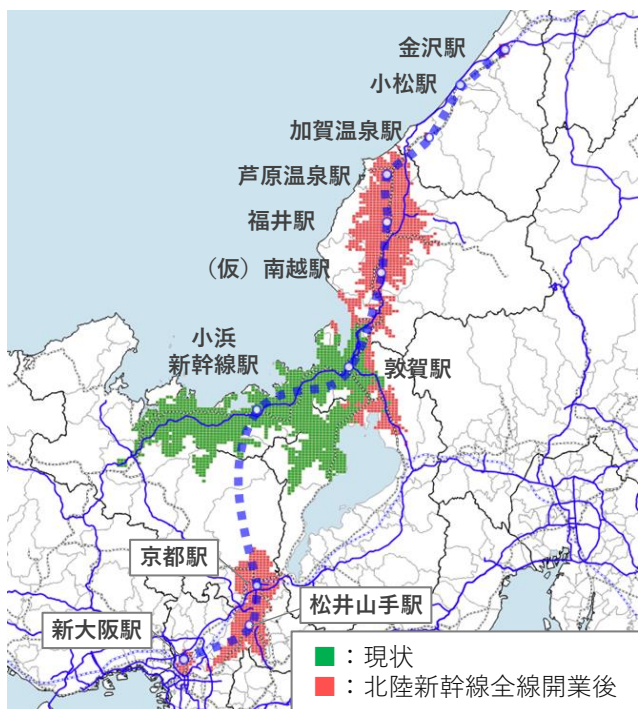
出典：福井県北陸新幹線建設促進同盟会「北陸新幹線パンフレット(2018.3)」

小浜市からの時間圏の変化

北陸新幹線全線開業後は、小浜市の60分圏に、新大阪駅や金沢駅周辺までが含まれます。小浜市の60分圏人口は13.8倍に増加します。

小浜から60分以内の地域の居住人口

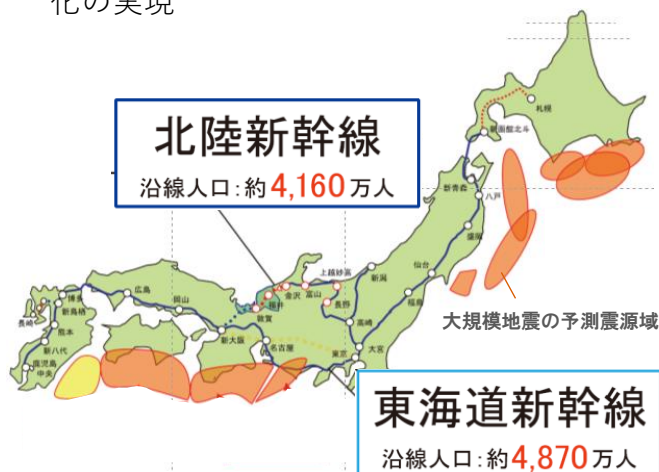
現在 27.1万人 → ^{13.8倍} 全線開業時 373.6万人



新たな国土軸の形成

北陸新幹線は、日本海側の新たな国土軸です。

- ・ 東海道新幹線、リニア中央新幹線などの高速交通インフラと合わせて、大環状の広域観光ルートが誕生
- ・ 東海道新幹線と相互に支えあい、国土強靱化の実現

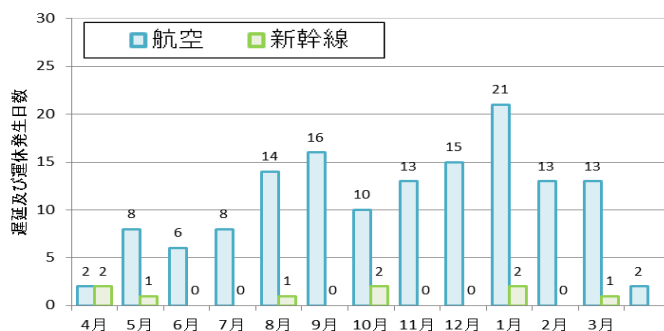


出典：地震調査研究推進本部「南海トラフの自信の長期評価について」他

安全安心な大量輸送機関の実現

新幹線は、他の交通機関と比べて

- ・ 多くの人を安全かつ安定的に運べます。
- ・ 北陸で心配される雪による輸送障害に強く、定時性に優れています。
- ・ 二酸化炭素の排出量が低い交通機関です。



出典：鉄道建設・運輸施設整備支援機構「北陸新幹線(金沢・敦賀間)事業に関する再評価報告書(2018年3月)」図3-3(p.3-2)

地域構造の変化

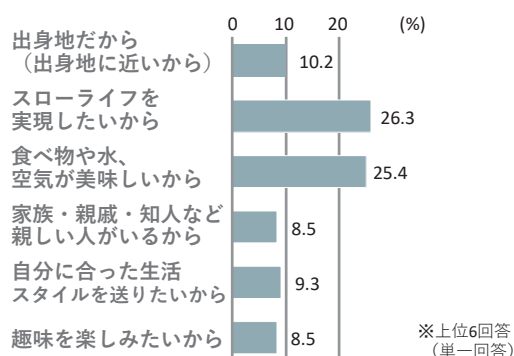
- ・ 東京駅と直接つながる日本海側の最西端の新幹線駅になり、山陰方面と北信越・首都圏とをつなぐまちとなります。
- ・ 新幹線沿線諸都市と一体となった発展が期待されます。
- ・ 現小浜駅と小浜新幹線駅の2つの玄関口を市内に有することとなります。

小浜市を取り巻く情勢

移住定住面の強み弱み

- ・「海」「自然」「海産物」「食」は、市内外から小浜市のイメージとして認識されています。また、近接する大都市（京都、大阪）の住民は、小浜市をスローライフを実現できる移住先の検討候補地として肯定的に捉えられています。
- ・都市住民の移住先としての不安は、仕事・雇用に関する内容が上位に挙げられます。

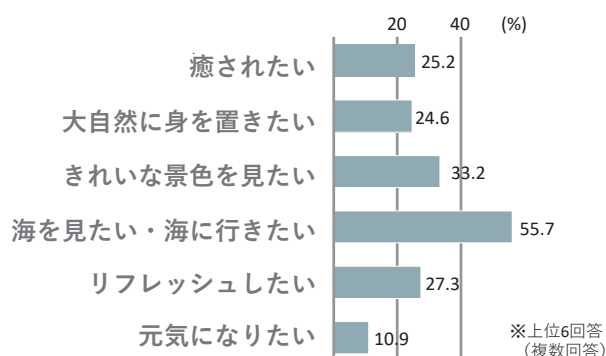
小浜市を移住・2地域居住先として考えた理由



観光誘客・交流拡大の強み弱み

- ・小浜へ海を目的に訪れ、海産物を食べることを理由として再訪する動きがみられることから、「食」と「海」に強みがあります。
- ・外国人が興味を抱く「日本の歴史・伝統文化体験」「日本の日常生活」が残っています。
- ・「冬期の来客」「魅力を伝える体験や人材」「宿泊ニーズに合った宿泊施設」「外国語対応」等に課題があります。

小浜市への来訪動機



新幹線全線開業に対する市民の声

- ・新幹線開業に向けて、目指すべきまちの姿を市民の皆さまにお聞きしました。

自然に囲まれゆったりと暮らせるまち

医療・子育て・交通が充実し、安心して暮らせるまち

住民自身がまちづくりを楽しむまち

地域外の人とともに地域づくりができるまち

Uターンできるまち

2拠点居住など、多様な暮らし方ができるまち

多様な働き方ができるまち

地域内の仕事が魅力的なまち

地場産業が元気なまち

関西とともに訪れるまち

海や自然を楽しみに何度も訪れたいまち

今ある地域の魅力を活かしたまち

自然に囲まれゆったりと暮らせるまち

全国的な情勢

- ・地方での暮らしに対する注目
都市圏から近く、豊かな自然のある地方への移住希望が高まっています。
- ・技術革新の進展
AI、IoT、ロボット、ビッグデータ等に代表されるIT技術が進歩しています。
- ・関係人口の増加
都市と農山漁村を行き来する多様な人の交流による地域活性化が見られます。
- ・訪日外国人の増加
国内の訪日外客数は増加し、地方への関心が高いリピート客数も増加しています。
- ・働き方の変化
時間や場所を選ばない自由な働き方に関する取組みが積極的に進められています。



※「新幹線講座（平成30年11月23日開催）」のアンケート結果より作成

出典：内閣府HP「科学技術政策-society5.0」

小浜市の発展可能性

「新幹線開業のインパクト」「小浜市の強み」「小浜市の弱み」「全国的な情勢」を踏まえ、新幹線開業による小浜市の発展可能性は、下記のことが考えられます。

① 市民生活の向上

国内外との所要時間短縮効果による市民の行動範囲拡大で、文化・学習・交流などの機会が広がり、市民の日常生活の満足度の向上が期待されます。



② 関係人口・2地域居住者の増加

伝統行事や農林水産業など、都市住民と小浜市民の新たな交流により、農山漁村の豊かさを都市住民とともに感じ、支えることが期待されます。



③ 移住定住者の増加

都市圏から遠すぎない、自然豊かな地方として居住地の魅力が高まり、都市住民の移住定住の増加が期待されます。



④ Uターン者の増加

都市への新幹線通勤の実現やテレワークの普及により、小浜市に居住しながら選択できる職種が広がることによって、Uターン者の増加が期待されます。



⑤ 訪日外国人旅行者の増加

国際観光都市である京都と隣駅となり、大環状広域観光ルートに組み込まれることで、近年増加している訪日外国人の来訪増加が期待されます。



⑥ 国内旅行者の増加

京都や大阪の市街地から60分圏域となる小浜市は、関西から最も近い日本海側のまちとなることから国内旅行者の来訪増加が期待されます。



⑦ 若狭湾エリアの玄関口機能の発揮

小浜新幹線駅は、嶺南地域や京都府北部からの利用のほか、山陰と北信越・首都圏をつなぐ、若狭湾エリアの玄関口の機能を発揮することが期待されます。



⑧ 新たな企業の立地

高速ICと新幹線駅が近接する立地、沿線諸都市とのアクセス向上、採用環境向上、都市から近い自然豊かな環境が実現し、新たな企業の立地が期待されます。



⑨ 地元産業の活性化

沿線諸都市との近接性や交流人口拡大を活かし、観光産業等が活性化するとともに、幅広い産業への波及効果が期待されます。



⑩ 新たな大学・研究・研修施設等の立地

関西と近く、自然や食・文化が豊かな環境が広がるまちとなることから、教育・大学・研究・研修関連施設等の立地が期待されます。



スマート&スローシティ 御食国若狭おばま ～あたらしく、こちよく、あなたらしく～

奥深く美しい文化・風土・暮らしに未来の革新が融和する。
「住む人・訪れる人が心惹かれるまち」を創造します。

【小浜市を取り巻く情勢】

新幹線開業のインパクト
「国内外との交通アクセスの向上」

社会の動向
「技術進歩を取り込んだスマート社会の進展」

小浜市の魅力
「連綿と受け継がれたスローな地域の暮らし」

【発展可能性】

- ① 市民生活の向上
- ② 関係人口・2地域居住者の増加
- ③ 移住定住者の増加
- ④ Uターン者の増加
- ⑤ 訪日外国人旅行者の増加
- ⑥ 国内旅行者の増加
- ⑦ 若狭湾エリアの玄関口機能の発揮
- ⑧ 新たな企業の立地
- ⑨ 地元産業の活性化
- ⑩ 新たな大学・研究・研修施設等の立地

【基本的方向】

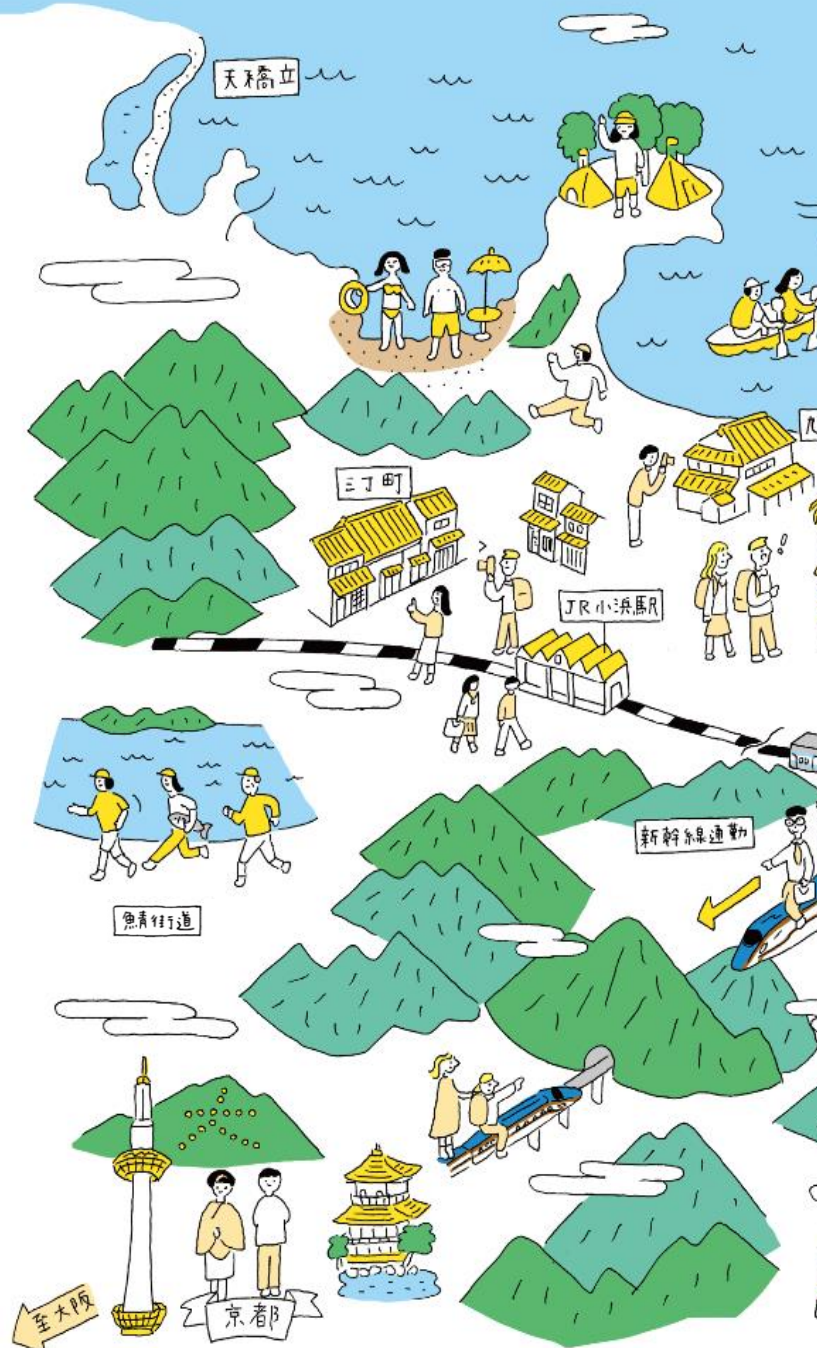
生活の質の向上
「小浜暮らしの可能性の拡大」

移住定住の促進
「新たなライフスタイルの創造」

交流人口の拡大
「世界から誘う日本海側の玄関口機能の充実」

産業・教育の振興
「次世代を拓く人と技術の育成」

スマート&スローシティ 御食国 若狭おばま ～あたらしく、こちよく、あなたらしく～

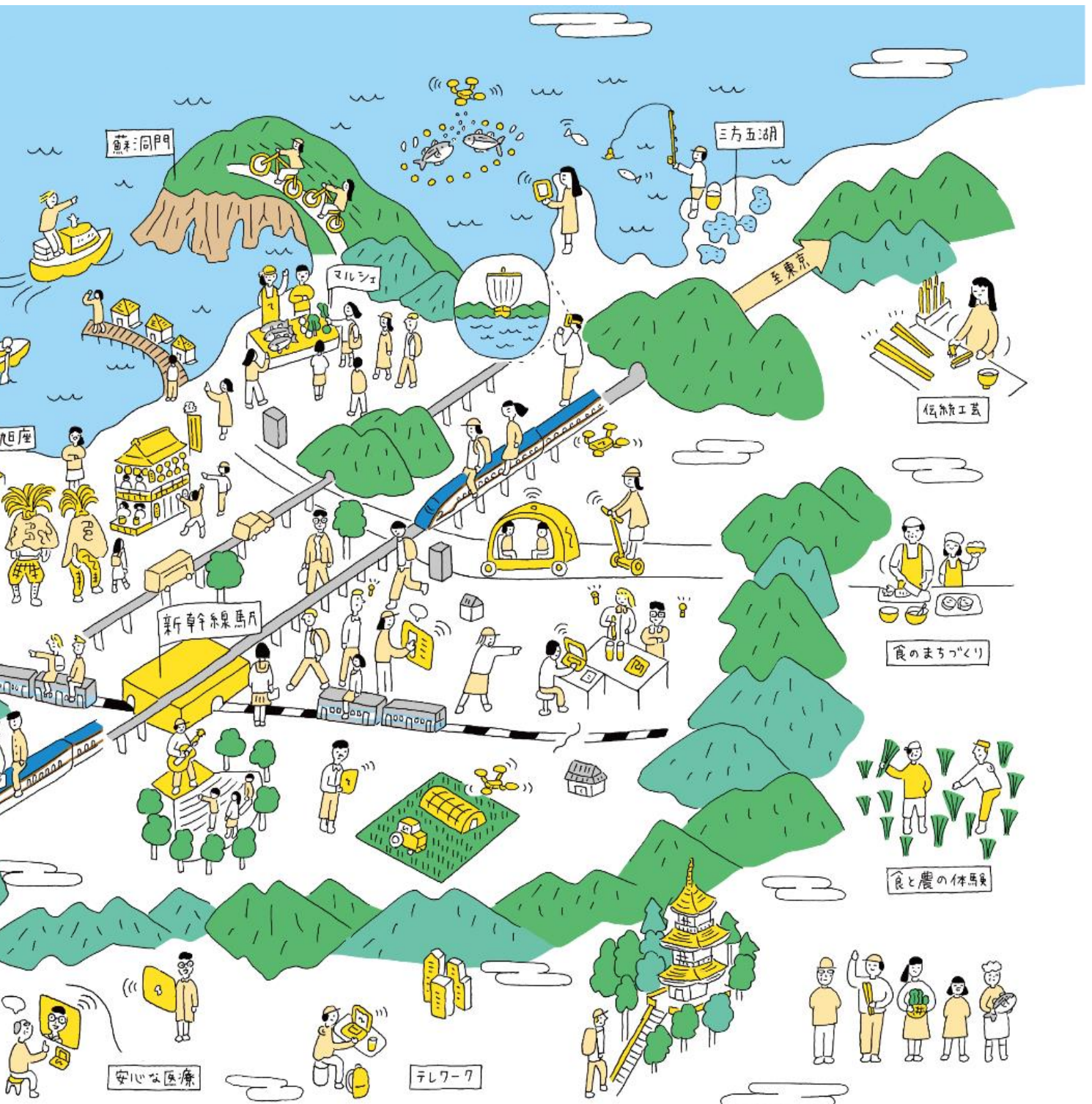


小浜市には、これまで地域の人々が連綿とつないできた、自然・文化・食・歴史の豊かさを楽しみ、味わうことのできる“スロー”な暮らしが息づいています。この“スロー”な暮らしは、市民の誇りであり、訪れる人にも感動を与える魅力があります。

北陸新幹線全線開業によって、小浜市は沿線諸都市と物理的・精神的に近くなり、加えて進歩を続ける技術によって新しい価値やサービスが次々ともたらされます。

“スロー”な暮らしに、北陸新幹線や先端技術をかしくまちに取り入れた“スマート”な暮らしの実現によって、「地域ならではの豊かさ」と「これまでになかった暮らし方、働き方、訪れ方」が融和し、新たな小浜へと近隣都市とともに発展することが出来ます。

これにより、住み心地のよい個性豊かで奥深く美しい地域の魅力に、住む人・訪れる人が心惹かれ感動し、自分らしく暮らせるまちの持続的な発展につながるものと考えます。



基本的方向

目指す姿を実現するため、基本的方向と将来の可能性を見据えた取組目標を掲げます。

基本的方向1：生活の質の向上 「小浜暮らしの可能性の拡大」

新幹線による生活の幅の広がりを活かし、安心できる環境と夢・希望・誇りを育むよりよい暮らしの実現を目指します。



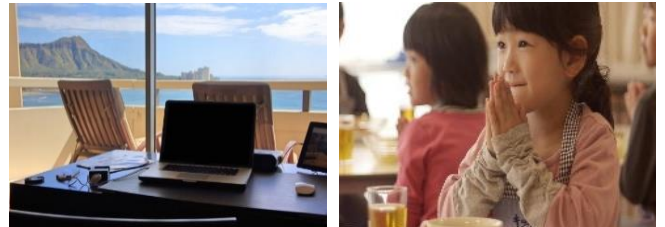
出典：(左)国土交通省九州運輸局HP「グリーン・モビリティ2025」が開催について
(右)IoT新時代の未来づくり検討委員会「未来をつかむTECH戦略」

【イメージ】

- ・家から新幹線駅までは、自動運転の新モビリティで向い、19分で京都へ。
- ・新幹線での通院や、都会から小浜への往診で、専門の治療を受けられ、安心して暮らすことができる。
- ・小浜ならではの地域文化を肌で感じながら、京都へ展示会や習い事に出かけられ、都会にしかなかった文化にも触れられる。
- ・子どもたちも自然豊かな環境で過ごし、都会に簡単に行けるため、個性を伸ばし、可能性を引き出す多様な学びと挑戦できる環境がある。

基本的方向2：移住定住の促進 「新たなライフスタイルの創造」

都市とつながる自然や食文化が豊かな地域で地域と人の多様な関わり方を実現し、誰もが自分らしく暮らせるまちを目指します。



【イメージ】

- ・観光での来訪を機に、都会に近く、歴史文化があり、自然・食が豊かな小浜に関西から移住。
- ・仕事は、関西の企業に週に一度は新幹線通勤をしながら、普段は小浜のサテライトオフィスで働いている。
- ・移住者には、食育や自然体験学習などが好評で、小浜の仕事を魅力に感じ就職している人もいる。
- ・休日のたびに小浜を訪れる人も見かける。祭に参加する人など、色んな形で地域と関わりがあり、農山漁村の豊かさをともに楽しみ、誰もが自分らしく暮らしているように感じる。

基本的方向3：交流人口の拡大 「世界から誘う 日本海側の玄関口機能の充実」

食・自然・日本遺産などの地域資源を研ぎ上げ、日本海側の玄関口として世界の人を誘うまちを目指します。



【イメージ】

- ・京都の隣駅の小浜新幹線駅には、国内外から観光客が訪れ、若狭湾エリア各地に向かっている。
- ・関西からは、海や食を楽しみに何度も訪れる人が増え、関西から最も近い日本海側のまちとして、都市住民の癒しのエリアとなっている。
- ・新幹線で直結する関東方面からも観光客が多く訪れ、京都訪問の前後に小浜で自然体験や食体験を楽しむ旅行スタイルが定番となっている。
- ・「日本遺産のまち」を日本人だけでなく、訪日外国人も、京都から一足伸ばして楽しんでいる。
- ・車を運転しなくても十分に観光ができています。

基本的方向4：産業・教育の振興 「次世代を拓く 人と技術の育成」

高速交通ネットワークと小浜固有の自然や文化を活かして世界や時代をリードする人や技術を育むまちを目指します。



【イメージ】

- ・新幹線駅と高速ICを備え、ITインフラ整備が進み、企業やサテライトオフィスが立地している。
- ・地元産業は新幹線やスマート技術を活用し進化を続け、地元企業に憧れる子どもが増えている。
- ・小浜を訪れる人が増え、観光産業も勢いづいて、幅広い産業に効果が及んでいる。
- ・若者や新産業への支援が積極的に行われ、食や伝統産業など地域を支える人材、世界をリードする技術を開発する人材が輩出されている。
- ・自然や食などを活用した様々な研究活動が行われ、地域課題解決にもつながっている。